

「親力」を学ぶ

今、子どものためにできることは何か？

2004年、秋田市に設立された国際教養大学。地方の公立大学法人でありながら、ユニークな教育方針と「就職率100%」の実績で、各方面から注目されています。「世界に通用する人材育成」をモットーに、同大学をつくり育ててきた中嶋嶺雄学長に、「目的意識をもった学生生活のために、大学1年生の親は何をするべきか？」を伺いました。

世界に発信できる人材を育てる

私が学長を務める国際教養大学では、学生が目的意識を持ち、将来のキャリアを考えていけるようにカリキュラムを組んでいます。その結果としての高い就職率が注目されていますが、本学が目指すのは「就職のための大学」ではありません。あくまでも「グローバルな人間をつくる」ことを目標とした教育を行っています。

ここ20年ほどの急速なグ

ローバル化やIT革命によって、世界の枠組みは大きく変わりにつつあります。それに伴い、日本だけで通用するのではなく、

世界に向けて発信できるたくましさを持った人間が求められるようになっていきます。まずはこうした社会状況の変化を、親御さんがしっかりと認識することが必要です。

その上で具体的に必要なこ



Profile

中嶋嶺雄さん Mineo Nakajima

国際教養大学理事長・学長。国際社会学者。1936年、長野県松本市生まれ。東京大学社会学博士。77年、東京外国語大学教授。95～01年、東京外国語大学学長。98～06年、文部（科学）省中央教育審議会委員。06～08年、内閣教育再生会議有識者委員。著書に「国際関係論」（中公新書）、「世界に通用する子供の育て方」（フ・レスト254S新書）など。国際教養大学で人材は育つのか！（祥伝社黄金文庫）著多数。

2 人間形成に不可欠なリベラル・アーツ



大学の人文・社会科学を中心とした教養教育。国際教養大学では最も力を入れています。「人を自由にする学问」が原動力。起源は古代ギリシアに遡ります。

1 発信できる英語は何よりのスキル



国際教養大学では、TOEFL試験の高得点獲得を目標としています。また、世界に視野を広げるために1年間の留学を義務づけています。

中嶋教育のkey word

5



中嶋先生が薦める 親力を身につける本

子どもの素晴らしい能力をより高めるためには、まずは親自身が豊かな教養力を磨くことが大切。そのために、読書は大変有用です。



【万葉秀歌(上・下巻)】
斎藤茂吉著
(岩波新書/上巻・840円、下巻・756円)

『万葉集』を解説する。古来の言葉から日本人が持つ奥ゆかしさや日本語の美しさを学び、親として、まずは日本人としてのアイデンティティーを高めたい。



【新唐詩選】
吉川幸次郎・三好達治著
(岩波新書/840円)

人と自然との調和をうたった中国詩の魅力を説く。親となった今だからこそ共感できる詩も。日本とは異なる視点だからこそ学べることも多い。



【マゼラン・アメリカ】
シュテファン・ツヴァイク著
関橋生・河原忠彦訳
(みすず書房/絶版)

史上初の世界一周を達成した探検家・マゼランの伝記。その偉業に惚れた人間ドラマを読めば、これまでの人生の在り方を改めて考えさせられる。



【おろしや国酔夢譚】
井上靖著
(文春文庫/610円)

江戸時代、ロシアに漂流した船頭が女帝エカテリーナ2世に拜謁するまでの実話を描く。広い世界へと目を向けるきっかけを与えてくれる1冊。



【世界に通用する子供の育て方】
中嶋嶺龍著
(フォレスト2545新書/945円)

中嶋先生の最新の著書。グローバル化時代における、家庭教育、学校教育の在り方を提唱。子どもの能力を伸ばすノウハウがおさめられている。

ご紹介したような書籍を「家庭内共通図書」として、親子で読んで語り合っただけではいかがでしょうか。こうした教養は、すぐには就職に結び付かないように思えるかもしれませんが、けれど、スキルやノウハウではなく、人間としての力を高めることは、結局は就職活動にも生き

英語で自らの考えを発信していくには、しっかりした教養の裏付けが必要です。私は大学で学ぶリベラル・アーツの基礎を担うのは、家庭での教育だと考えています。そのためには、親自身が教養を磨くことも必要です。

親子でともに成長する 生涯学習の時代

グローバル社会で求められるのは、 国際経験を積んだたくましい人間

進路決定に重要な 親子の対話や力づけ

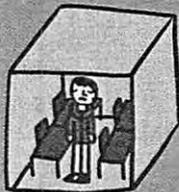
大学入学後は、子どもに自立を求めることが必要になります。しかし一方で、親子のコミュニケーションも同じくらい重要です。本学では、方向性が分からなくなってしまう学生には、学長の私が自ら個人面談をしています。

今やメールや電話で用が済む時代ではありますが、お互い目を見て、肉声で語り合うことは何より大切です。お子さんが迷っていたら、話し合い、力つけてあげてください。道すじを示してあげることが親の役割ではないでしょうか。

大学入学を機に、お子さんが大学でどんなテキストを使っているのか、読んでみるのもいいと思います。これからは生涯学習の時代。親子ともに学ぶ気持ちになれば、双方が成長できる絶好のチャンスです。

これまでの日本の教育は、18歳で文系・理系を決めて専攻を選ぶと、進路を変更できませんでした。私はこうした状態を「コンパートメンタリゼーション(小部屋化)」と呼んでいます。本学の適性は、教養科目を広く学んでから分かるものです。硬直した教育システムから子どもを解放し、より広い世界へと送り出してあげること、たくましい人間に成長していくのだと思います。

5 非コンパートメンタリゼーション(小部屋化)



若いうちから専攻を決めさせ、幅広い可能性を閉ざしてしまふ。これを避けるためには、進路変更可能な柔軟な教育システムが求められます。

4 学長自らが学生に個人面談を行う



当校では、私も年間5、6回ですが、個人面談を行っています。面談後の学生は、目的意識を取り戻し、学業の成績も大幅にアップしています。

3 これからの日本は生涯学習の時代



これからの日本は、社会総がかりとなって教育のレベルを上げていくことが必要です。子どもだけでなく親も生涯学習が続きましよう。